

コシヒカリの穂ばらみ期前後の倒伏診断

1 はじめに

コシヒカリは倒伏しやすい品種で、これまでも幼穂形成期に倒伏診断し、穂肥の加減や倒伏軽減剤の散布により倒伏対策を行ってきました。しかし、近年、基肥一括肥料が普及し、穂肥の加減による倒伏対策ができなくなりました。

そこで、穂ばらみ期前後（出穂5～14日前）に倒伏診断し対策する技術を紹介します。

なお、稈長は節間伸長期（幼穂形成期から出穂期）の天候の影響を強く受ける（図1）ため、穂ばらみ期前後の倒伏診断は、幼穂形成期での診断よりも精度が高くなります。

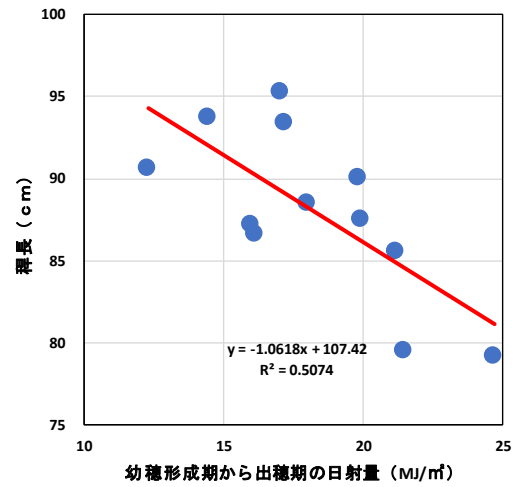


図1 節間伸長期の日射量と稈長の関係

2 技術内容

コシヒカリは、穂が重たく稈長が長いと倒伏する傾向があり（図2）、倒伏程度が3以上となると、収量と品質に大きく影響します。倒伏程度が3より小さい時、穂が重いものでも、稈長が87cm以下となっていることから、倒伏を防ぐには、稈長を87cmまでにすることが必要です。

本倒伏診断は、第4節が伸び切った穂ばらみ期前後（出穂5～14日前、幼穂長で5～17cm）に、第4、5節の長さを測ることで行います。第4、5節の長さが14cm以上の時、稈長が長くなり、倒伏の可能性が高くなることが分かります（図3）。

そのため、穂ばらみ期前後の第4、5節の長さを測り、14cm以上の場合、倒伏軽減剤を散布することで、大きな倒伏を避けることができます。

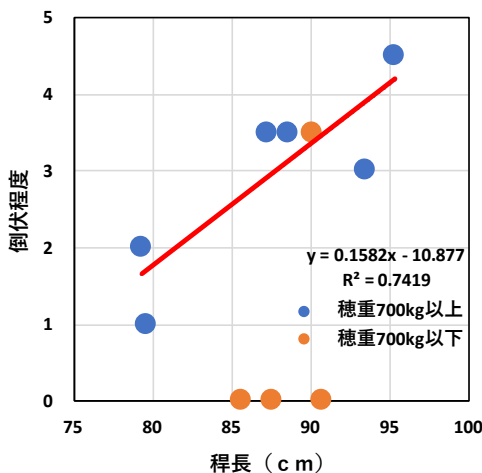


図2 稈長と倒伏程度の関係

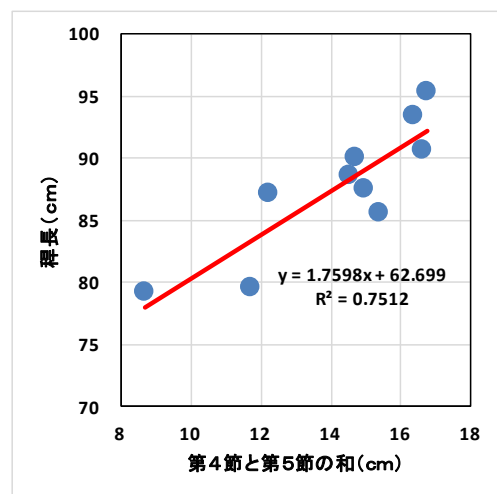


図3 第4、5節の長さとの関係